

アラカルト

愛知県鉄構工業協同組合 理事長
(優良組合士)

石原義幸さん

広島食品工業団地協同組合
専務理事 (協会運営功労者)

二藤 徹さん

会員数は20社となっています。全国的に知名度のある企業も育っています。



二藤さん

私は平成19年から組合に勤務しています。組合は昭和51年の設立と同時に集団化を実施し、今日までに課題の把握と対応を続けてまいりました。特に排水処理場の整備や冷蔵倉庫、駐車場、組合会館の建設などは大きな取組みです。

●勉強は日常の業務とリンクを

編集部 組合検定試験受験の経緯について、お聞かせください。

石原 合格したのは平成19年です。当時、私は専務理事だったのですが、職員たちに受験を勧める際に「私もやるから一緒にがんばろう」と職員たちに声をかけたのです。職員たちも「専務理事が受けるなら」と、納得してくれました。もう還暦間近でしたが、何とか合格しました。

わからないところは中央会で聞いて、総会運営の細かいところなども教えていただいたので、とても勉強になりましたね。

編集部 職員の皆様のためにというのはめずらしいですね。二藤専務はいかがですか？

二藤 私は昭和60年、30歳の時に合格しました。もともと簿記は勉強していたのですが、組合の会計は一般の簿記とは異なっていることもよくわかり、勉強してよかったと思いました。

編集部 どのように勉強されたのでしょうか？

石原 私は実務経験が長かったのですが、会計は難しかったですね。でも、実務として組合運営を真面目にやっていたら合格すると思います。

二藤 私も同感ですね。会計は難しいのですが、日常の業務の一環として勉強すればいいのではないのでしょうか。

石原 また、中小企業診断士の清水透先生の著書はお勧めですね。単なる受験用の知識だけでなく、人情のようなものがわかっていらっしゃる方だと思いますね。

二藤 私もお勧めします。現在は、参考書として利用させていただいています。

編集部 ありがとうございます。次号では、組合の業務や今後のこと、読者の皆様へのメッセージなどをお聞きます。

組合士制度の発展をめざして

編集部 今月号と次号は、愛知県鉄構工業協同組合（名古屋市中区）の石原義幸理事長と広島食品工業団地協同組合（広島市西区）の二藤徹専務理事のお二方に、組合と組合士についてお聞きします。石原理事長は今年度の「優良組合士」、そして二藤専務理事は同「協会運営功労者」を受彰されています。

●組合員のニーズに対応し続ける

編集部 まずは、自己紹介をお願いします。

石原理事長 愛知県鉄構工業協同組合は、建築の鉄骨の仕事に関する業者で構成され、現在は158社が加入しています。おかげさまで昭和50年の創立から40周年を迎え、組合員の支援を続けてまいりました。



石原さん

私自身は鉄構会社経営を経て、平成10年に愛知県鉄構工業協同組合事務局長、24年から理事長の職を仰せつかっています。今回の受彰は「組合士制度の発展に寄与せよ！」との、今後への御命令と捉えています。

二藤専務理事 私たちの広島食品工業団地協同組合は、広島市内中心部から西に7kmほどの埋め立て地にある工業団地です。惣菜やソースなどの食品メーカーで構成されており、現在の組